

本市農業の現状と今後の振興策について

四 竈 英 夫

〔質問〕長期化する不況で経済は冷え込み、景気の二番底が懸念されるなど、国内外ともに厳しい経済情勢が続いている。

本市の基幹産業である農業も、低迷する農産物価格とは裏腹に、高騰する肥料、農薬、生産資材等経費の増大により経営は圧迫され、農家の生産

意欲は減退している。

さらに、農業経営者の高齢化と後継者不足による経営不安、減反政策による遊休農地の増大、鳥獣被害による耕作放棄地の拡大等々課題が山積している。昨年実施したアンケート調査結果も踏まえ、今後どのような農業振興策をとられるか。また、「戸別所得

補償モデル対策」の推進策について伺いたい。

〔答弁〕【市長】新たな農業振興策に向けたアンケート調査の全体の結果については、農業所得「なし」が32.7%、「50万円未満」が全体の38.8%で全体の7割を占め、現状の維持・拡大と意欲的な農家612戸についても、農地を荒らさないため、飯米の確保が最も多く、「農業で生計を立てる」が57件であったことから、全体として農業以外の産業に依存している現状が浮か

び上がっている。

これらの実態を参考として、関係機関との協議を重ね農業の振興・地域整備計画の作成に務めるとともに、併せて企業誘致など雇用の確保が改めて必要と考えている。

戸別所得補償モデル対策については、白石市農政推進協議会において生産数量を目標においた担い手を育成するため、継続して傾斜配分を行うこと。生産調整の達成・未達成者間における農業者間の調整としてのとも補償事業を行う

雇用の確保と地域経済活性化について

水 落 孝 子

〔質問〕現在、雇用の確保を図るため、深谷に工業団地を造成中であるが、工業団地完成前に誘致企業が決まっていることが望ましいし、また、地域経済の活性化のためには、白石市の資源である森林をい

○現時点での問い合わせの件数
○今後のアクションプラン
○市内森林面積
○林業振興策の確立で地域興しへの所見
○その他の課題
【その他の質問】
○下水道接続でクリーンなまちづくり

○新しい統合高校発足に当たり白石市でできること

〔答弁〕【市長】工業団地造成に関連し、企業からの問い合わせには具体的な規模や内容など詳細まで把握していないが10件程度の照会があり、企業誘致の実現が市民共通の願いであると思っている。

現在の経済状況下において、企業における投資環境は依然として厳しい状況にあると認識しているが、企業立地推進条例の一部改正による優遇制度を含めた誘致環境のPRに

努めるとともに、企業情報の収集やアプローチを積極的に行いたい。

市内の森林面積は194.5平方キロメートルで全体の約68%であるが、木材価格の低迷や担い手の育成が課題となっている。

林業振興策としては市行造林や「不伐の森」「水芭蕉・どうだんの森」など、農山漁村活性化プロジェクト事業の採択を受け、遊歩道などの整備を進めている。



白石市の水田

この議決をしているが、この制度には不明な点もあり、わかり次第お知らせしていきたい。

